



令和3年3月9日
航空局安全企画課

ドローンや空飛ぶクルマといった次世代航空モビリティに係る事務を 一元的に担う「次世代航空モビリティ企画室」を設置します

ドローンの有人地帯における補助者なし目視外飛行(レベル4)(2022年度目途)や、空飛ぶクルマの事業開始(目標:2023年)を実現するため、本年4月1日にこれら次世代航空モビリティに係る事務を一元的に担う「次世代航空モビリティ企画室」を設置します。

- いわゆるドローンや空飛ぶクルマは、生産性向上や人出不足解消といったこれからの我が国の社会課題を解決する新たなモビリティサービスとして、活用が拡大していくことが期待されます。
- ドローンに関しては、2022年度を目途としたレベル4の実現に向け、機体の安全性や操縦の技能に関する認証制度を柱とした航空法の改正案が本日閣議決定され、今国会に提出されます。
- また、空飛ぶクルマに関しては、2023年の事業開始を目標とし、官民の協議会においてロードマップを定め、取組を進めているところです。
- これら次世代航空モビリティに関する事務を一元的に行う組織として、本年4月1日、航空局安全部に「次世代航空モビリティ企画室」を設置します。

「次世代航空モビリティ企画室」の体制及び業務

(体制) 大臣官房参事官(次世代航空モビリティ担当)専従22名

(業務) 次世代モビリティに係るユースケースや活用に向けた課題を踏まえた安全基準の検討、無人航空機の登録制度の導入準備及び運用、関連システムの整備及び運用 等

- 次世代航空モビリティに関する制度設計に当たっては、航空局安全部の航空機技術審査センター(次世代航空モビリティに関する審査を担当、愛知県に所在)や、福島ロボットテストフィールドとの連携を図ってまいります。
- 今後は次世代航空モビリティ企画室において、関係部局との連携を図りつつ、次世代航空モビリティに関する制度の構築・運用等を一体的に行ってまいります。

【お問い合わせ先】 航空局安全部安全企画課 金子、山村

TEL 代表 03-5253-8111(内線 48298, 48273) 直通 03-5253-8696

ドローンのレベル4※（2022年度目途）・**空飛ぶクルマの事業開始**（2023年目標）を実現し、より高度・幅広い場面での利活用を推進するため、 ※レベル4：有人地帯上空での目視外補助者なし飛行

- ◆ 本年4月、これら次世代航空モビリティに係る事務を一元的に担う「**次世代航空モビリティ企画室**」を航空局に設置。次世代航空モビリティに係る具体的活用ニーズを踏まえた安全基準の整備等の制度構築を推進。
- ◆ **福島ロボットテストフィールドに航空局職員を派遣**（本年4月目途）することで、試験飛行等に対し現場で規制面の助言を行う等のサポートを行い、技術開発の促進や同テストフィールドの活用にも貢献。
- ◆ **航空機技術審査センター（TCセンター）と連携**し、安全審査を円滑かつ早期に行うとともに、メーカーに対する必要な助言や開発・実用化を後押し。

➡ アフターコロナの時代に対応した**次世代航空モビリティサービスの早期展開**を強力に推進

次世代航空モビリティ企画室（新設）

※本年4月

室長：大臣官房参事官（次世代航空モビリティ担当）

活用ニーズの拾い上げ

- ・活用に係るユースケース収集
- ・活用に向けた課題の分析等

安全安心な飛行のための制度構築

- ・ユースケース・活用に向けた課題を踏まえた安全基準の検討
- ・機体・操縦・運航管理等の安全に係る制度構築

緊密にコミュニケーション



福島ロボットテストフィールド

航空局職員の派遣
※本年4月目途



TCセンター（愛知県に所在）

航空局との連携を強化
基準整備と審査を連携して実施

関係省庁

サービス事業者（物流・旅客輸送等）

機体メーカー